
ブルーシング

えせん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブルーシング

【Zコード】

Z0728BA

【作者名】

えせん

【あらすじ】

僕が高校時代より趣味で書き溜めていた詩をいくつか紹介します。

ホロウポップ

ここには何もない

ただ這いつくばって呼吸をしてみた
ここでは眠れない

ただまぶたを閉じて耳を澄ました

真つ暗な闇の底から聞こえたのは

僕の鼓動と君の鼓動
空っぽな身体の中が
淡く熱くはじけた

さあ、歌つてあげよう

霞んで見えない空を見上げ

さあ、叫んだ言葉で

地面を激しく蹴つていけ

高く飛び出すのは誰だ？

ここには星がない

ただわからないまま明日に進んだ

ここでは笑えない

ただ涙をこらえて声をぶつけた

真つ白な部屋の空気、響いている

僕の愛撫と君の喘ぎ

汗ばんだ身体の奥で

甘く熱くはじけた

さあ、踊り狂おう

淀んで崩れる街の真ん中

さあ、もがいて吐いて

適度な想いを貫けよ

夢を見下すのは誰だ？

さあ、殴り飛ばそう

何だつていいさ壊せるものは
さあ、すべてを露に脱ぎ捨て

走り出せばいいよ

未来を碎くのは誰だ？

ホロウポップ（後書き）

作：2004.4.12

タカラモノ #2 胸にハート秘めて

束の間の幸せでも
それは確かに喜びで
僕が君を愛していた
十分な証になるだろ？

何気ない日々過ごしていたのに
重く降りだす雨は
すべて洗い流していった

小さな地球で小さなこの僕らが
出逢った奇跡も
今はひとつ記憶で
君にあげたハートの首飾りも
あの日深くにしまい込んだ

真っ白な部屋の隅で
埃をかぶつたままの
ふたりが寄り添う写真
君がむじやきに笑っている

もしあの頃に還れるなら
もう一度だけ君を
強く強く抱きしめたい

何も言わずにそのままいつてしまつの？
静かに目を閉じた君の頬は冷たく
窓の陽射し

照らされ光る涙

決してこぼさないと誓つたのに…

やがてきらめく夜空に生まれた星

君が笑つてる

どこかそんな気がした

約束しよう、君のこと想い続ける

ハートのタカラモノ、胸に秘めて

タカラモノ #2「胸にハート秘めて」（後書き）

作：2002.10.10

ハロー ハロー

優しい午後の日差し
僕は部屋にひとり
窓の外を眺めて
観てしているのは頭ン中

頬杖をついたまま
言葉は置き去りに
昨日の僕を連れて
明日の僕をのぞいた

遠くの声、近くの音
相手にしない、うわの空

ハロー ハロー

そちら調子はいかがですか？

ハロー ハロー

なんだか心、クモリのちアメ。

時間に浸つてからふと立ち上がった
冷蔵庫の奥に
真つ赤なリンゴひとつ

おもむろに齧りつく
少しまだ甘酸っぱい

明日の僕にはもう、たぶん味わえない

甘い夢と泣い日々

逃げ出せない、はやみうち

ハローーハローー

そちらまだまだ歩けますか？

ハローーハローー

どうやら足がゲンカイみたい、

大事なもの、宝物

部屋の片隅、落としもの

ハローーハローー

そちらこれからどうしますか？

ハローーハローー

とつあえず今は、明日を待つよ

ハロー・ハロー（後書き）

作
：2004.8.16

夢うつつ、見た光
湧きあがるものは何?
軽くなる感覚がどことなく水のよう

いつそ裸になつて溶けてしまえば
日々の何もかもから離れられる

もつと速くなお高く
光の奥に飛び込もう
最高に立ち上がれば
気持ちのコニッター振り切れる

駆けめぐる視覚から
抑えきれぬ感情で
愛の種育ててく
より強く大きくと
遠慮はいらないんだ
目を閉じて
さあ現実を気にせず
駆け抜けてゆけ

さらけ出して本能を
恥ずかしいなんて野暮でしょう
普段おとなしい人も
隠しているのは深い“G”

ひとつ残らず全部吐いてしまえば
後味はちょっとしたムナしさだけや

詰まるといの人はみな
交わる場所を探している
はじけることに一番
幸せを感じるから

G (後書き)

作
・2004
・8
・18

「」の世が四角く見えた日

せまい地球の上に命つてものがあつて
たくさんの生き物が動きまわつてゐる
そんな世界この街
人々がひしめいて
億万の出会いのもと僕が生まれた

流れゆく時の中
絡まり合い繋がつて
幸せや不幸とか持ちきれないだらう
運命を信じるかい?
愛を見つけられれば最高の事件なのに
この世はクール

君のその笑顔は一生一番の幸せで
初めての大ニュース
それでも惑星はまわる
今日も陽が昇る

宇宙は広すぎて
人はちっぽけすぎて
どんなに笑つてもどんなに苦しんでも
たつた一つだけの小さな小さな変化
どこか素敵で儂い
ロマンティックだね

僕のこの想いは一世一代の覚悟
最初で最後の失敗

それでも宇宙は静か

今日も陽が沈む

彼が出した答え

もう元には戻らない大きいはずの出来事

それでも惑星はまわる

今夜も月はキレイ

「この世が四角く見えた日（後書き）」

作：2004.8.24

この世の無情に気付いて何が変わった?

同じ繰り返しでバカみたいだ

無駄に上等なテクノロジー氾濫する

今の時代にはどうも合っていない

くだらぬ流行に喰らいつこうと走つてゐる

哀しい人間の行動が風潮を決める

不器用な奴らの劣等感つくるのさ

ああ

夢を掲げよつて道を歩いてたつて

いつ踏み外すかもかもわからない

ああ

最後まで頑張れつて正論振りかざしても

そんな強い口口口ばかりじゃない

器用でズル賢い者達だけの世界

同じ繰り返しが生み出す憂鬱

うわべだけの愛で紡ぐ恋人もどきの

慰め合いはどこか美しきかな

毎日猿みたいにオナつては気を紛らわし

誰かを殴りたい衝動を必死に抑え

苦し紛れの独り言つぶやくのを

ああ

チヨンマゲの時代は今よりマシなのかな

想像膨らまし現実逃避行

ああ

逃げたらダメなんだつて偽善悠々語つても
ホント辛い人にはおめでたい

戦争、闘争、競争
人間の本能、奔走

平和、愛、正義

しょせんは理性、蹴落としていけ

ああ

首を跳ね飛ばしたら

噴き出す血を浴びる快感に狂つてみたりして

ああ

君を抱き寄せたなら^{まだ}淫れ合いキスをして
コトバタクミナ歌を聴くの

ああ

なんちやつて価値観がこんなに違うから
複雑なパズルに当てはまらない

ああ

何もかも捨てられれば最高の幸せね
真つ暗闇に溶けてしまえ！

DARK × DARK (後書き)

作
：2004.9.13

青風船のメイソンジャー

青い風船膨らみすぎたよ
破裂したなら血が吹き出すよ
だから時々夕暮れの空
見上げて一縷の砂糖を探す

けれども踊る金平糖たち
どれ一つとしてトゲトゲしいの
同じ場所では笑わないから
そこにはまるで地獄があつた

もはや zen zen 車は進まない
ガソリン切れのヘタれカーなんだ
心 sick sick 溢れてくる涙
朝を迎えて道を外れていた

赤い爆弾、裏も表も
爆破したならぜんぶ消えそう
そしていつかは真っ暗な空
溺れ本能の雷走る

けれども今は間抜けな蛇が
自分の首を絞めるばかりで
この道の先墓場があるから
骨を集めてバーベキューしよう

いまや zen zen 頭は回らない
息を切らしたメリー・ゴーラウンド

心 sick sick 流れ落ちる涙
夜を迎えて僕は死ぬんだよ

心 sick sick 溢れてくる涙
朝を迎えて道を外れて
心 sick sick 流れ落ちる涙
夜を迎えて僕は死ぬんだよ

僕は塵になる

青風船のメイクン「ヨコー」（後書き）

作：2007.6.20

黄昏のくちづけ

夏の日の夕焼け染まる
放課後 教室の端
僕は一人、窓際の席
黄昏 街 眺めていた

頬杖とため息まじり
考えたことなどなく
空っぽの胸の奥には
たつた一握りの砂

不意に開いたドアの向こうに
「待つた？」と笑う彼女がいて
僕は首を振り立ち上がる
君と2人教室を出る

登る登る…屋上に続く
階段を一步一步

「本当にいいの？」と問いかけた
君は呆れたように笑い
も一度強く頷いた

屋上の風は優しく
暖かく僕らを包む
フェンス越しに見渡せる街
確かに僕らそこに生きて
いつか2人は出会った

奇跡 奇跡 繰り返す日々

2人の気持ち重なる
手首に残る幾多の
傷跡が思い出語る

柵を越え手を握り締め
空を仰ぎ息を吸い込む
やがて見つめ合う君と
触れ合うふわり唇
甘くかわいた感触
いつまでも残つていた

誰に向けた言葉でもなく
「さよなら」は小さく漏れて
2人繋いだままの手 離さずに
鳥になった 風になった

赤く赤く 染まつていく
黒く黒く 光は消えて
白い白い 雲は流れ
青い青い 空も消えた

黄昏のくがひな（後書き）

作：2008.2.8

ブラック&ブルー

一般論といふ鳥力ゴの内で
餌をついばむだけの日々を繰り返す
重圧的な価値観を押しつけられて
細い体はミシミシと軋んだ

気づかぬうちに羽は失くなつていたんだ
付け根から丸ごと奪い取られたように
もし主に逆らい捨てられたとしたら
さあ どうしよう、行き場のない僕？

BLACK & BLUE
鳥力ゴの下遙か深い闇が広がつて
生き延びるために落ちないよう
空を飛ぶための翼がいるのを

そもそも僕の明日はどこにあるのだろう
うつろな眼差しが宙を探している
瀕死の心を侵食するネバつきには
理屈も飲み込まれてしまつようね

BLACK & BLUE
床も壁も手足も酷い汚れがこびりつき
襲いくる強迫が過ぎる時間を
意味のない世界に変えてゆくんだ

いつも望むことは大したものじゃない
素直な理解とシンプルな愛でいい

ただそれだけ

ねえ 運命の創造主

「普通を求めちゃいけないのかなあ?」

BLACK & BLUE

鳥力、ゴの下遙か深い闇が広がっている
生き延びるために落ちないよう

空を飛ぶための翼がいるのに

BLACK & BLUE

手を伸ばしてみるから

僕をここから連れ出してよ

「助けて」という言葉叫び続けたって

疲れてしまうばかりだからねえ

プラッケンブルー（後書き）

作：2007.9.4

頭の上にあるステレオじゃ
愛や恋をひたすら叫んでる
こんなはずじゃなかつたのわ
空想、妄想が一人歩き

お前を背中におぶつてから
急激に道がキツくなつたよ
恐ろしく長く感じられる時間の波に
頭抱えて

そんなにほしいならくれてやるぜ

ボロボロに破けた魂をな

太陽が青く見えた?

そりや錯覚だぜ

奴はいつだつて空で笑つて
俺たちを見下してんだ
楽しんでんだ

お前を手放してしまつてから
急転直下 転がり落ち始め
哀しくも危険と噂される
スラム街に息を潜めて

そんなに反応がほしいならば
殴つてやるぞ、そう何発でも

月が真っ赤に燃えた？

そりや滑稽だぜ

奴はいつだって空で嘲って

俺たちを侮蔑してんだ

哀れんでんだ

道化師のカウントダウン

さあ数えろ 3 , 2 , 1

そんなにほしいならくれてやるぜ

ボロボロに破けた魂をな

太陽が青く見えた？

そりや錯覚だぜ

奴はいつだって空で笑つて

俺たちを見下してんだ

楽しんでんだ

脳天に BANG !

D A R K × D A R K
2 (後書き)

作
： 2 0 0 9
． 9
． 1

ハート オブ アート

ある画家が描いた一枚のこの絵を
じっと目を凝らしてみて

何が見えるだらう

黒と白が織り成す空と海の世界
やがて2つは交じり合ひ

鳥は魚に還る

彼が創る光と闇は
僕らの胸に幻想を映す

この世界中に溢れてるたくさんの夢の花が
奥深くに隠し持つた答えの意味
手探りで見つけよう

寂しげにうつむく「考える人」の像が
地獄を見下ろす姿だと

あなたは知っていますか？

ロダンが何を伝えようとしたか
その想いに耳を傾けてみてや

流れる歴史のその中で生み出された夢の花が
僕らに訴えかけている言葉の意味

手を伸ばして感じて

恐怖さえのぞく叫びも、悲しげな微笑みも、
水面に映る街並みも、あたたかな母の愛も、

激しい苦悶と怒りに壊れるほど泣く女も
それぞれが語りかけている心の意味
この宇宙へ届けよう

ハート オブ アート（後書き）

作：2002.7.15

休日はラフに

お気に入りのジーンズに履き替えたら
自転車で晴天へ繰り出そう
小道往く散歩中の仔犬に
手を振つて追い風を共にしよう

丘の上から眺める海は今日も
粉砂糖散りばめたように輝いてる
潮風からのお誘いにのつたり
一気に坂を下り

休日はラフにいかなきゃね
行き当たりばつたりで
いつものような予定まみれの
息苦しさは捨てて
マイペースに走つていこうよ
力まずペダルこいで
それくらいがちょうどいいんだよ

少しだけ一休みしていこう

街角の小さな喫茶店

アイスティーの氷の鳴る音が

心地よく体に元気くれる

陽射しのカーテンあまりに優しいから
眠たくなるけど眠っちゃもつたいない
お店を出たら再び自転車に乗り
ゆっくり走り始めよう

休日のラフな雰囲気は街にも溢れる
木漏れ日の揺れる公園では
親子がキャッチボール
腕を組み歩くカップルの横を追い越したなら
信号に引っかかったよ

郵便局の角を曲がればあとは一直線だ
丸い水平線に浮かぶ
小船たちが見渡せる
潮の香りが手を引っぱって
砂浜に連れ出した
足の裏がちょっと熱いかも

木口はラフに（後書き）

作：2008.8.18

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0728ba/>

ブルーシング

2012年1月10日23時45分発行